

参加者：PTA会長 古後様 (A) 同窓会会長 田中様 (B) 堺市美原区区长 山田様 (C)
大阪農業大学校長 根来様 (D) さつき野学園校長 中曾様 (E)
本校校長 首席 (喜多村 烏谷 井上) 生活指導部長 (林田) 進路部長 (山下)
保健部長 (稲葉)

1. 学校長挨拶
2. 学校運営協議会 委員長選出
大阪農業大学校長 根来 様
3. 協議 (司会進行：委員長)

(1) 校長より、以下①～③の説明があった。

①令和4年度 学校経営計画及び学校評価について

- 1、めざす学校像。
- 2、5年から10年先をみつめた目標。
- 3、今年度重点的に取り組む目標を表している。

めざす学校像については、学びの中に感動やときめきをみつけられることをめざしている。基本的な知識技能を確実に身につけること。またそれを活かして思考・判断・表現力を身につける。主体的に学習に取り組む態度を身につける。自らを律する事ができる規律・規範を身につけさせる。農業の担い手として活躍できる人材を育成する。

②中長期目標

少人数を展開し、確かな学力の育成を行っている。一定の効果があると考えている。自主的に学ぶ態度や習慣を身につけさせるため、予習復習を大事にしている。生徒の個々の進路実現を支援する。
社会に参画し貢献する意識を情勢する。地域創生「ジェネラリスト」の育成に力を入れている。規律・規範の確率と豊かな心の育成について。特に教員の人権意識やカウンセリングスキルを向上させるための指導を行う。教職員の資質向上をめざす。教員間の授業見学を行っている。長時間労働教員が多数いるため、システムも含め改善が求められている。校内研修や施設見学を行い、課題に対応できる組織を構築する。
地域や記号との連携を図り、ネットワークの活用を進める。魅力の発信については、昨年度、学科別で食品加工科の定員が割れており、今後力を入れていかなければならない。

③本年度の取り組み内容について

- 1、少人数展開の実施。1年生の国数英において実施。人数を半数にすることで教員の目がさらに届くようにしている。満足度を維持するため今年度も実施している。
 - ・放課後補修等を実施している。
 - ・学習の習慣化について。予習復習ができている生徒の解答が平均値3.0であった。その点について、今後この数値を上回るよう努力していく。
 - ・各種検定について、受験をすすめている。
 - ・「学びのための基礎診断」を実施し、基礎学力の伸長につなげる。
 - ・進路保証について、昨年度就職内定は100%であった。農業関連就職者18名、国公立大学農学部等が34名であった。今年度も生徒の希望に沿った進路指導を行っていきたい。
- 2、農業教育について
 - ・農業クラブの大会について。近畿ブロック代表としての出場をめざす。
 - ・アグリマイスターの認定者の10名以上をめざす。
- 3、起立規範の確率と豊かな心の育成について (生活指導面)

- ・遅刻指導を減少させる。前年度比10%をめざす。平成27年度4500人ほどであったが、現在（令和3年度）は1450回ほどと大幅な減少となっている。
- ・生徒の幼さが目立っている。支援の必要なお子さんも多く入学してきている。支援に対する体制づくりを行っている。支援や教育相談に関する研修を実施する予定である。
- ・いじめの防止については、アンケート実施を行っている。発生させないことを目標にアンケートを行っている。
- ・カウンセリングの体制を確立させる。肯定率 80%以上をめざす。

4, 授業力の向上について

- ・授業の相互見学や他校の授業見学をおこない、自身の授業力を高められるようにする体制を整える。
- ・ICTの活用が進んでいる。会議のペーパーレス化や会議内容の視覚化により作業の効率化を図っている。
- ・定時退庁日をもうけているが、あまりできていない。
- ・人権等研修がなかなか取り組めていないが、資質向上のため取り組んでいく予定である。

5, 農業高校としての広がりのある教育の展開と情報発信について

- ・農産物の販売や講習会等を通して実施していく。
- ・コロナ禍で外部の説明会が少なかった。今年度は、外部の説明会にはすべて参加する予定である。テレビ等でも取り上げてもらい、広報に力をいれていきたい。農業高校が大阪にあることを知ってもらうことからはじめていきたい。

委員E：中期的目標にある、少人数授業の活用について。教員の定数が決まっていると思うが、加配でもらっているのか。

校長：英語の教員0.5人分をもらっている。その他については、初任者加配等で配置している。教科によって時間数が違うが、余裕のある教科についてはその他のところもかぶってもらっている。農業の講師が見つからない現状がある。現在農業科は2名減の状態である。理科の教員をもっている方に臨時免許をわたして働いてもらっている。

委員E：本校のうさぎが死んでしまい、生徒がどうしても飼いたいと思っている。貴校の先生と生徒のみなさんが、うさぎの飼い方についてパワーポイントをつかって丁寧に教えてくれた。こどもたちも大変よろこんでいる。

委員B：農業の免許をもたない先生がいらっしゃると思いましたが、転勤で支援学校にいった農業科の教員がいるときいている。

農業の教員には農業のある学校でやってほしいと感じる」

校長「教育委員会の人事についてもかわってきているが、現状支援学校にて勤務されている方もいる」

B 「できれば、専門的知識や技術、経験をもっている農業の先生は農業科のある学校で教鞭をとってほしい。農業科教員の人数が少ないためぜひ教育委員会にも伝えてほしい。そして農業教員の育成に力を入れてほしい」

校長「農業の教員の充実のため、教育実習を大勢受け入れている。今年度は9名受け入れた」

C 「働き方改革について。具体にはなかなか難しいとおっしゃっていたが、なにか手立て等はあるのか」

校長「実業の時間外労働が特に多い。時間外総合実習というものがある。放課後や休日に実施している。動物の世話管理や作物の管理、食品の加工等それぞれの学年が行っており、週に3回夕刻まで実施しているため、時間外の労働が増えてしまっている。現在、作業等分担制を考えている。複数で実習をもっているが、農場や実習に入る時数を減らしていきたいと考えている」

C 「ICTについて活用がすすんでいるといったが、区役所においても実施しはじめています。ペーパーレスにすることで、資料印刷の作業が不必要になった。紙面の処理もなくなったためやりやすくなった。なにか参考になることがあればと思う。対人についてはなかなか難しいとは思いますが、それ以外のところで効率化を図ることができる。情報共有できることがあればよろしくお願いいたします」

D 「魅力の情報発信について。本校も同じ悩みを抱えている。どういうところをPRポイントとしているのか教えてください」

校長「HPには活動を積極的にあげている。週ごとにアップしているところもある。学校を知ってもらうためにはHPが大切だと考えているため、充実したものにしたい。またメディアについてもすべて受け入れるようにしている」

喜多村 「学校説明会等がコロナにおいてできない1年であった。現在戻つつある。教員が中学校へ訪問していたが、今年度は、1年生に母校訪問をしてもらっている。1年生に有志を募り、80名～90名が参加を希望してくれた。収穫したものを持参するなどし、母校へPRをもらった。本校を決めた理由として農芸祭を見学してという生徒が多かったため、今年度は中学生をよびたいと考えている。現在学校で調整している」

B 「外部でどうぶつ園活動をしているのを見たが、その活動を通して学校を知ってもらえていると感じた。食品加工が定員割れしていたが、加工品等をもっとしてもらえたら希望者も増えるのではと感じた」

C 「どうぶつ園活動をしている生徒さんのいきいきとしている姿が印象的であった。あの姿をみると農芸高校の魅力が伝わると感じた」

喜多村 「昨年度体験入学をした際、コロナ禍だったため生徒対象とし、保護者の来校をお断りしたが、高等学校を検討する際、保護者の意向も大切だと感じたため、保護者をファンにできる取り組みを考えたい」

A 「子供の進路を考える際、最初は普通科を考えていたが、私が農業に興味があり、ネットで探すと大阪に農業高校があることを知ることができた。たまたまみつけれられたが、そういうたまたまをふやしていけたらいいと思う」

C 「少子高齢化がすすみ、生徒の数も少なくなっているため、選んでもらう大変さがあると思う」

A 「遅刻者が減ったということについて。娘はバスから自転車通学にかわった。バスの本数が少ない。改善はできないのか」

校長 「南海バスにお願いはしているが、自転車通学の生徒が雨天の時のみバスを使用するため、なかなか増やしてもらえない」

A 「道が狭く、事故の危険性もあるので、できれば安全のためバスで登校する生徒がふえるようにしてもらえればと思う。バスの本数が増えると遅刻も増えるではないか」

校長 「今後も南海バスにお願いしていきたいと思う」

林田 「バスの延着等では遅刻回数にカウントしていない。遅刻の理由としては寝坊等が多い。本校では遅刻指導を行っている。遅刻回数が5回を超えると早朝登校や放課後指導を行っている。複数回繰り返す生徒に対しては、生活指導部長や校長からの注意を行っている」

(2) 教科書採択について

校長 「資料確認。教育庁より、協議会にて了承を得ることとなっている。ご意見等があればお願いしたい」

B 「農業の教科書が少ないと聞いていたが、継続して使用するものはあるのか」

教務 「継続は「食品製造」と「畜産」のみ」

烏谷 「教科書を出版している会社が最大2社しかない。予算の都合上あらたに作成することは難しいと言われている。新学習指導要領に応じた教科書の作成もまだできていない状況である。ただし、図書室の図書が充実してきているため、全学科に共通する資料は豊富になってきている」

喜多村 「とくに畜産系、動物系の教科書が大変少ない。教科書が発行されていない科目が多いため、教員が文献をみつけて教材としている場合が多い」

B 「農業大学校での教科書は豊富であると思うが、どのようなものか」

D 「学術書等もある。作り方のコツのような本も多い」

林田 「インターネット等もあるので、教員も生徒も活用することが増えた」

(3) その他

山下 「コロナによって、2年ほど就職求人が落ち込んでいた。例年指定校求人が100件ほどだったが、一昨年は70件、昨年は80件、今年は現段階で60件ほどである。今まで来ていなかった指定校求人がきている」

井上 「初任の先生が増え、実習の多さや普通科教員の少なさから、教員の授業力の向上を図る機会が少ない。また、退職されるベテランの教員が多くなっているため、校外での見学の企画を行った。まずは近距離にある生野高校にお願いした。生徒が主体的に学ぶ取り組みが多い授業であり、本校でも取り入れたいという回答が多くあった。今後は、支援が必要な生徒も多くなっているため、的確な指示や個別対応がきちとなされている小学校の授業は大変勉強になると考えているため、ぜひ小学校への見学をしたいと考えている」

E 「ぜひ見学にきていただければ。個別最適化や共同的な学びについては、小学校の授業をみてもらうと学べるものが大変おおくあると思う。」

林田 「本校の生活指導面における現状。頭髪指導においては指導を行っているが、継続的な指導が必要でなかなか労力が大きい。保護者によっては指導に納得されない方もいらっしゃり、指導やその後のケアも含めて作業時間が多くなっている。他校でも頭髪指導はきっちりしているとのこと。SNS関連での指導案件も増えている。また自転車通学における迷惑行為や事故も増えてきている。」

稲葉 「スクールカウンセラーとの面談を希望する生徒が大変多い。」

4. その他

次回 第二回 令和4年12月9日（金） 午前

第三回 令和5年2月10日（金） 午後